

平成30年 火災と救急救助の概要

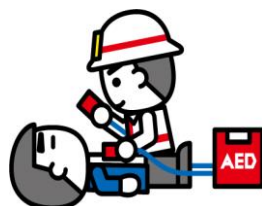
消防本部予防課予防G (☎ 0595-82-9492)

消防本部消防総務課消防救急G (☎ 0595-82-9496)

火災 27 件

救急 2,284 件

救助 30 件



●火災の概要 【消防本部予防課予防グループ】

平成30年中の火災件数は27件で、前年に比べて2件増加しました。また、火災による負傷者は1人でした。

項目別では、建物火災が5件で前年に比べて1件減少し、うち住宅火災は3件でした。

主な出火原因は、枯草焼き、たき火などの火の不始末や配線器具等のスパークによるものでした。

火を取り扱う際は、消火器等を準備しその場を離れない。また、日頃から電気配線の点検にも気を使いましょう。

項 目		平成29年	平成30年	前年比
火災件数	建物火災	6	5	-1
	林野火災	0	0	±0
	車両火災	7	7	±0
	その他火災	12	15	+3
	合 計	25	27	+2
死傷者	死者(人)	0	0	±0
	負傷者(人)	3	1	-2

※その他火災とは、建物、林野、車両に該当しない火災です。(例：空地の枯草や田畑の火災など)

主な出火原因	平成29年	平成30年
	たき火、枯草焼き	たき火、枯草焼き
	火の不始末	火の不始末
	車両不備	電気配線等

●救急救助の概要 【消防本部消防総務課消防救急グループ】

■救 急

・事故種別出動件数、搬送人員（表1）

平成30年中の出動件数は2,284件、搬送人員は2,167人で、前年と比べて出動件数は3件増加し、搬送人員は7人減少しました。

1日の平均出動件数は6.3件で、平均搬送人員は5.9人となっています。

事故種別では、急病によるものが最も多く、次いで一般負傷、交通事故の順となっています。

（表1）

事故種別		年 別		前年比
		平成29年	平成30年	
火 災	出動件数	6	6	±0
	搬送人員	1	0	-1
自然災害	出動件数	0	0	±0
	搬送人員	0	0	±0
水 難	出動件数	1	1	±0
	搬送人員	1	1	±0
交通事故	出動件数	247	247	±0
	搬送人員	261	260	-1
労働災害	出動件数	38	45	+7
	搬送人員	35	43	+8
運動競技	出動件数	5	11	+6
	搬送人員	5	11	+6
一般負傷	出動件数	352	369	+17
	搬送人員	341	350	+9
加 害	出動件数	5	3	-2
	搬送人員	2	2	±0
自損行為	出動件数	22	24	+2
	搬送人員	13	16	+3
急 病	出動件数	1,456	1,458	+2
	搬送人員	1,371	1,366	-5
その他	出動件数	149	120	-29
	搬送人員	144	118	-26
合 計	出動件数	2,281	2,284	+3
	搬送人員	2,174	2,167	-7

・被搬送者の傷病程度別比率（表2）

平成30年中の被搬送者2,167人における傷病程度の比率は、軽症が1,155人で53.3%、中等症が816人で47.7%、重症が152人で7.0%、死亡・その他が44人で2.0%となっています。前年と比べて軽症の占める比率が増加し、中等症の占める比率が減少しました。

（表2）

年 別		平成29年	平成30年
傷病程度			
軽 症	搬送人員	1,079	1,155
	比 率	49.6%	53.3%
中等症	搬送人員	871	816
	比 率	40.1%	37.7%
重 症	搬送人員	147	152
	比 率	6.8%	7%
死亡・その他	搬送人員	77	44
	比 率	3.5%	2%
合 計	搬送人員	2,174	2,167

※ 軽 症：入院を必要としないもの

中等症：入院を必要とするもので、重症に至らないもの

重 症：三週間以上の入院加療を必要とするもの

死 亡：初診時において死亡が確認されたもの

その他：医師の診断がないものなど

・被搬送者の年齢区分別比率（表3）

平成30年中の被搬送者における年齢区分別比率は、高齢者が1,227人で56.6%、成人が740人で34.1%、少年が69人で3.2%、乳幼児が131人で6.1%、新生児が0人で0%となっています。年齢区分別比率は前年と同程度となっております。

（表3）

年 別		平成29年	平成30年
年齢区分			
高齢者	搬送人員	1,223	1,227
	比 率	56.3%	56.6%
成 人	搬送人員	749	740
	比 率	34.5%	34.1%
少 年	搬送人員	76	69
	比 率	3.5%	3.2%
乳幼児	搬送人員	123	131
	比 率	5.6%	6.1%
新生児	搬送人員	3	0
	比 率	0.1%	0%
合 計	搬送人員	2,174	2,167

※ 高齢者：65歳以上の者

成 人：18歳以上65歳未満の者

少 年：7歳以上18歳未満の者

乳幼児：生後28日以上7歳未満の者

新生児：生後28日未満の者

・医療機関への市別搬送比率（表４）

平成３０年中の市別医療機関における搬送比率は、市内医療機関への収容率が４３．３％で、市外医療機関への搬送が５６．７％となっています。

（表４）

市 別		年 別	平成２９年	平成３０年
亀山市	搬送人員		１，０１３	９３９
	比 率		４６．６％	４３．３％
鈴鹿市	搬送人員		８４６	９６８
	比 率		３８．９％	４４．７％
津 市	搬送人員		１７５	１５５
	比 率		８．１％	７．１％
四日市市	搬送人員		１２７	９０
	比 率		５．８％	４．２％
その他	搬送人員		１３	１５
	比 率		０．６％	０．７％
合 計	搬送人員		２，１７４	２，１６７

・現場到着・病院収容までの平均所要時間（表５）

平成３０年中の現場到着までの平均所要時間は、８．４分で前年と比べて０．１分延びました。また、病院収容までの平均所要時間は、４２．２分で前年と比べて１．４分延びました。

（表５）

所要時間	年 別	平成２９年	平成３０年	前年比
現場到着（分）		８．３	８．４	+０．１
病院収容（分）		４０．８	４２．２	+１．４

■救急車の適正利用と救急医療情報システムの利用

救急車の適正利用については、広報「かめやま」、ＺＴＶの文字情報や救急講習会などを通じて、市民の理解と協力をお願いしていますが、依然として明らかに軽症と思われる方、タクシー代わりの出動要請など緊急性の低い事例がみられます。

「救急」の場合は、希望の医療機関へ搬送できるとは限りません。また、医療機関では、重症者の治療が優先されます。

救急車を呼ぶほどではないが、すぐに受診を希望される場合は、下記の《救急医療情報システム》を利用してください。

《救急医療情報システム》

パソコン **URL** <http://www.qq.pref.mie.lg.jp/>

携帯電話 **URL** <http://www.qq.pref.mie.lg.jp/k/>

自動案内 ☎0800-100-1199（通話料無料・ファックスでも受信可能）

医療情報センター（対人案内） ☎059-229-1199

※受診の際は、必ず紹介された医療機関に事前確認してください。

※救急車を呼ぶべき症状について詳しくは、市消防本部のホームページをご覧ください。

（**URL** <http://www.city.kameyama.mie.jp/shobo/index.html>）

■救 助

平成30年中の救助件数は30件で、前年に比べて1件減少しました。交通事故に伴う救助出動が最多となっています。

災害はいつ起こるか分かりません。日頃から災害に対して備えましょう。

救助の概要		29年	30年	前年比
事故種別件数	交通事故	17	25	+8
	水難事故	1	1	±0
	建物等による事故	3	0	-3
	風水害等 自然災害事故	0	0	±0
	機械による事故	1	1	±0
	その他の事故	9	3	-6
	合計	31	30	-1

※その他の事故とは、交通事故、水難事故などに該当しない事故です。

■災害情報案内の利用

火災などの災害情報を自動音声案内や市消防本部ホームページ（軽易なものは除く）に掲載していますので、ご活用ください。

《自動音声案内》

☎82-9555

《市消防本部ホームページ》

URL<http://www.city.kameyama.mie.jp/shobo/>